

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501271		
法人名	医療法人社団 上田病院		
事業所名	グループホームあいあい		
所在地	登別市美園町4丁目23-9		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501271&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事を多く行ない生活に変化をつけています。春はお花見、夏は町内会の方も参加してもらいバーベキューを行ったり、秋には壮瞥までぶどう狩りに行ったり、運動会を開催しています。6月から10月まで毎月1度母体の上田病院の大きなお風呂に入りに行っています。皆さん大きな浴槽に入り、のんびりと過ごしています。毎月ボランティアグループの方が来てくれて、踊りなど披露してくれます。入居者さんも一緒に踊りに参加して、楽しい時間を過ごしています。自立されている入居者さんが多く、自分で出来ることは極力やってもらっています。毎日の体操やレクリエーションなどを始め、1階と2階に分かれたユニットなので階段を利用し足腰の運動を行い運動機能の維持・向上に努めています。季節感を感じてもらえるように、壁に季節ごとの飾りつけなども行なっています。毎月入居者さんと職員とで一緒にちぎり絵なども作成しています。経営母体が病院であり、入居者さんの急病の診察や薬の処方調整などもすぐに行えることや、緊急時の対応などもすぐ出来る事が、入居者さんや家族も安心していただけていると思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成22年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの施設・設備と地理的環境はJR鷺別駅、バス停若草小学校から数分の近い交通至便な場であり、施設設備も南面にある建物は明るく居間・居室・トイレ・浴室の配置もよく介護しやすい条件を整えている。
- 2) 職員は優しく丁寧な介護支援を真摯に努めている。
- 3) 運営推進会議の開催状況は行政関係・地域の会長や婦人部長・民生委員・家族で構成され、運営資料や議題を明らかにして委員の意向を運営に活かしている。
- 4) 家族の信頼も高く(アンケート結果)行事等の協働関係を築いている。
- 5) 地域の社会資源との関係は町内関係を含め幅広い支援関係を築いている。

【サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します】

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活の中で、今ある機能を維持でき、自分らしい生活を営めるよう、毎日のミーティングやユニット会議などで話し合っています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、廃品回収やお祭りなどの行事、避難訓練などを通して町内の人たちとの交流を図っています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会、地域包括支援センター、家族、市役所、消防署などが参加する運営推進会議を通し、情報を共有・収集しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、運営状況を地域の方々や家族へ公開して意見交換を行なっています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度の入所状況の報告や運営推進会議を通して、事業所の実情や取り組みを報告しています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置して職員にも理解を求めている。玄関の施錠は夜間のみ行なっている。身体拘束も行なっていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで学び職員にも伝えて虐待の防止に努めている。日常の言動にも注意を払い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を必要とする方はいないのですが勉強会などに出席して学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分に説明しています。契約時には書面をもって明示・説明を行い理解納得を得られるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情があった場合は速やかに職員全員への周知を行い検討し改善に努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者は職員の意見や提案を把握できるようミーティングやユニット会議に参加し反映できるようにしています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修への参加 担当業務の割り当て 自己評価を行い個別の面談 実績に応じた昇給		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に関わらない職員の勉強会の実施 研修・講習会への参加		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研究会や広域連絡会で情報の交換を行っている。包括センター主催による事例発表、連絡会などの研修参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談して、本人、家族の要望など聞き、言動など観察しながら、安心して生活していただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族との連絡を密に行い、不安なことや要望などに家族の思いを聞くようにしている。何でも話しやすい関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を十分に聞き、本人の状況に応じて他のサービスの利用を含めた情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを感じ、理解するように努めその人らしく生活するように努めている。職員は一緒に飲み物を飲んだりテレビを観ながら会話を楽しんでいる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報を共有し、コミュニケーションを多くとるようにして信頼関係を築いていけるように努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は自由に行なっています。行きつけの美容院への送迎、通っていた病院への通院、友達との会食など行なっています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士がソファや食卓テーブルなどで会話を楽しんだりしています。体操やレクリエーションを毎日リビング内で行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居する場合、受け入れ先の病院と十分に連携し情報を提供し本人が安心して過ごせるように配慮しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らし方を本人又は家族から聞き意向に沿うように努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報とアセスメントでこれまでの生活歴・生活環境の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがその人らしく過ごせるようにプランを作成しプランに添ったケアを行っています。その時の状況に応じた対応をしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞きながら、一人ひとりにそった具体的計画を作成しています。職員全員で統一したケアが出来るように心がけています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき日々の様子やケアの実践を介護記録として個別に記入し職員全体で情報を共有しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望があった場合は対応する体制が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長、民生委員の方などに参加してもらっています。毎月ボランティアで踊りをしてくれる方やピアノ演奏会など行ってくれたりしています。町内会・消防と連携した防災訓練を実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医からの情報収集を行い、本人・家族の希望により継続して医療を受けられるように支援しています。受診の際には本人・家族の希望により受診先を決めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保しています。施設長が看護師ということもあり日常ある変化や気づきを連絡し、必要があれば医療機関へ受診しています。また法人内の看護職員も訪問看護に毎週来てくれています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は介護添書を作成し情報を提供し入院後も同じケアが受けれるように努めています。回復状況を確認し、退院後の生活がスムーズに行なえるように情報収集に努めています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の覚書に添って本人や家族が希望される生活が営めるよう努めています。家族と連絡を密にし、主治医の指示のもと本人・家族の希望に沿えるように配慮しています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを作成しています。朝の申し送り時に緊急時のシミュレーションを実施しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行なっています。職員全員が訓練できるよう配慮しています。入居者や町内会の方にも参加してもらい実施しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアに配慮しています。言葉のかけ方や対応により本人のプライバシーを傷つけないように注意しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の表情や言動を観察し本人の思いが叶うようにしています。自己決定できない方もいますのでこまめに声かけて出来るだけ本人の思いを汲み取るようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のそれぞれのペースを尊重し、何がしたいのかを聞いたり観察して、望んでいる事が出来るよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などを選ぶ人は自分で選び着ています。自分で出来ない人は職員が変わりに行なっています。定期的に美容室に行き散髪やパーマをする人もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあった食事を提供しています。一緒に調理が出来る方はいませんが、簡単な皮むきや下膳などやってもらえる時にはお願いしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量の把握、その時の状態に合わせて食事や水分の提供をしています。その人の状況に合わせてミキサー食、キザミ食、栄養補助食品の提供、トロミ剤を使用して提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に合わせて、毎食後歯磨き、義歯洗浄、うがいを行っています。自力で出来ない人は職員が介助しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別で排泄のパターンを把握してトイレに誘導しています。ズボンなどの上げ下ろしなども出来る限り自分で行なってもらい、出来ない部分を介助しています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行い水分摂取や下剤の調整、坐薬使用などで対応しています。排便がスムーズになるように食物繊維の多いものの提供や適度な運動も取り入れています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望する日や時間に入浴できるように配慮しています。入浴を拒否する時には日程を調整したり時間をずらしたり職員を変えて対応しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて夜間・日中に関わらず休んでもらっています。自分の意思で休む事が出来ない人は本人の状況や時間をみて横になってもらいます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・用法・用量などは個別にファイルしてあります。薬は医師の指示のもと服薬しています。服薬時には誤薬防止の為職員が声を出し、名前、日付けの確認を行っている。症状の変化により医師の指示で頓服薬を使用するときもあります。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみが出来るようにしています。貼り絵やカード遊び、テレビ鑑賞やカラオケ、新聞、雑誌の講読、散歩、ドライブなど行なっています。入居者の意思で洗濯物をたたむ作業を手伝ってくれる人もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に散歩や買い物、通院、ドライブに出かけています。本人や家族・友人の希望により外出や外泊も行なっています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持っていることで安心されている人もいます。事務所に預けている人は買い物の希望があれば一緒に出かけたり、代わりに職員が購入して本人に渡しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており希望があればいつでも対応できるようになっています。家族から電話があり本人に伝えてもらいたい事があれば本人に替わったり伝言を伝えています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で歩ける人が多いので職員は廊下やトイレ、リビングなどで混雑やトラブルがないよう配慮しています。温度や音にも配慮し過ごしやすい空間であるよう注意しています。季節毎に合わせた飾りを入居者さんと一緒に作り飾っています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファには居たい時に居てもらい気の合う人同士で話しながらテレビを観たりおやつを食べたりしています。ソファで横になり休むなど自由に使ってもらっています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が気に入っている物や長年使っている馴染みの家具や布団、写真、タンスなどを使用しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やドアにはサインプレートを貼り自分で行くことができるようにしています。毎日の体操やレクレーションへの参加や階段の昇り降りを行い機能の維持に努めています。		